

本スライドは、当日のセミナー資料から一部を抜粋したものです。

XDDPを活用したトレーサビリティの 追求

アヴァシス株式会社
事業基盤強化推進室 室長
山ノ内忠男

目次

- 現状の組込みソフトウェア開発
- 派生開発プロセスとしてのXDDP
- 当社の抱える課題
- 課題への取り組み
 - 要件の抽出/仕様の導出に対する課題
 - 要件仕様書のドキュメント品質の課題
 - トレーサビリティ・マトリクスの完全性の課題
- まとめ

派生開発(受託開発)の特徴

- 全体理解なしに開発が進むケースが多い(部分理解が前提の開発スタイル、時間が取れない)
 - 無知見者であるケースがほとんど
- 動いていた機能が動かなくなる(動くはず)
 - 無知見者が開発をすることによる弊害
- 顧客との要件合意の不備が多い(発注側にとって当たり前)の暗黙知が当たり前でない)
- そのため仕様変更が比較的多い
 - 影響範囲を掌握できていない

当社のXDDPの活用

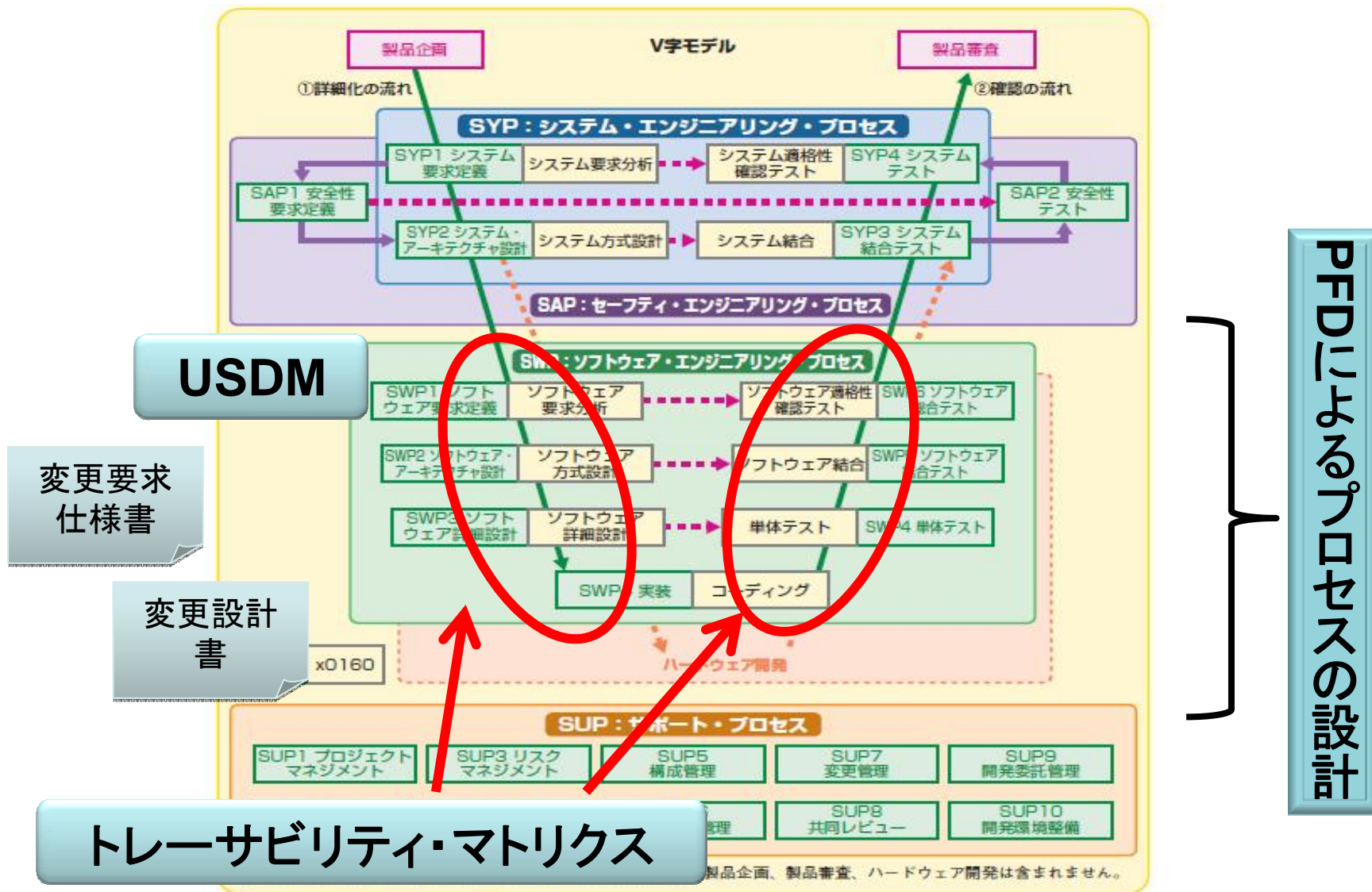


図 2.1 V字モデルと開発プロセス

組込みソフトウェア向け開発プロセスガイド、IPA/SEC(2007)

今までの課題

- 要求仕様書は、USDMで作成している
- トレーサビリティ・マトリクスも作成している

でも

- 実装、テストで不具合が多発している
- 結合テストで仕様不具合が発見される
- レビューでは、問題が検出できない
- テストの工数は、一向に減らない

今のやり方で何か不足しているのでは？

見えてきた課題

- 要求仕様書には、誤解釈を生むような記述が46%残っている
- 要求の抽出/仕様の導出に課題があり、漏れがある
- 要件管理においてトレーサビリティの維持が確実に行われない。
 - 維持できない状況に追いやられる

要求仕様書の品質が悪い？
トレーサビリティの不完全では？

要求仕様書品質の向上は、トレーサビリティの完全性の前提条件